

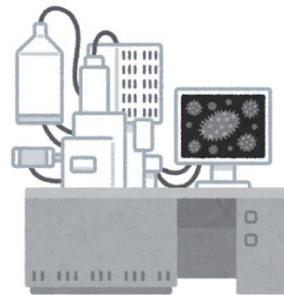
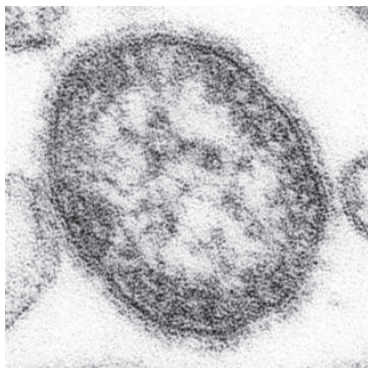
愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会中だからこそ、 麻疹（はしか）について知っておきたい話

❖ 麻疹（はしか）とは？

麻疹（はしか）は、麻疹ウイルスによって起こる感染症で、とても感染力が強い病気です。せきやくしゃみだけでなく、同じ空間にいただけでもうつる「空気感染」を起こします。

感染すると、約10日ほどの潜伏期間の後に、発熱やせき、鼻水、目の充血といった風邪のような症状が出ます。その後、39度以上の高い熱とともに、全身に赤い発しんが広がりますが、症状はおおむね7日～10日で回復します。しかし重症化すると肺炎や脳炎を起こすこともあり、まれに命に関わることもあります。麻疹に対する免疫がない方が感染すると、ほぼ100%発症します。特異的な治療法はなく、対症療法が中心となります。

麻疹ウイルスの電子顕微鏡写真（米国疾病対策センター提供）



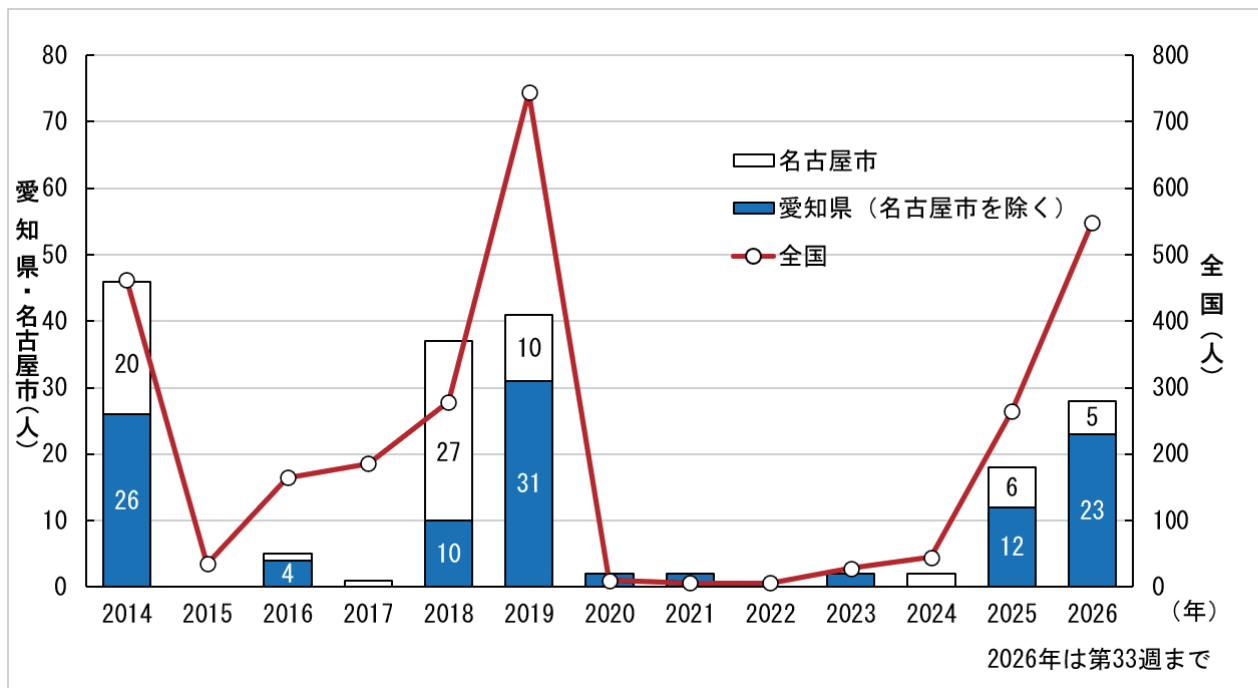
❖ 日本では「排除」された病気ですが・・・

日本では、2015年に世界保健機関（WHO）から「麻疹排除国」と認められました。これは、国内でウイルスが広がり続ける状態がなくなったことを意味します。

しかし、これは「完全にゼロになった」という意味ではありません。現在の日本の麻疹の多くは、海外から持ち込まれたケース（輸入感染）です。海外で感染した人が帰国し、周囲に広げることで、国内でも患者が発生しています。

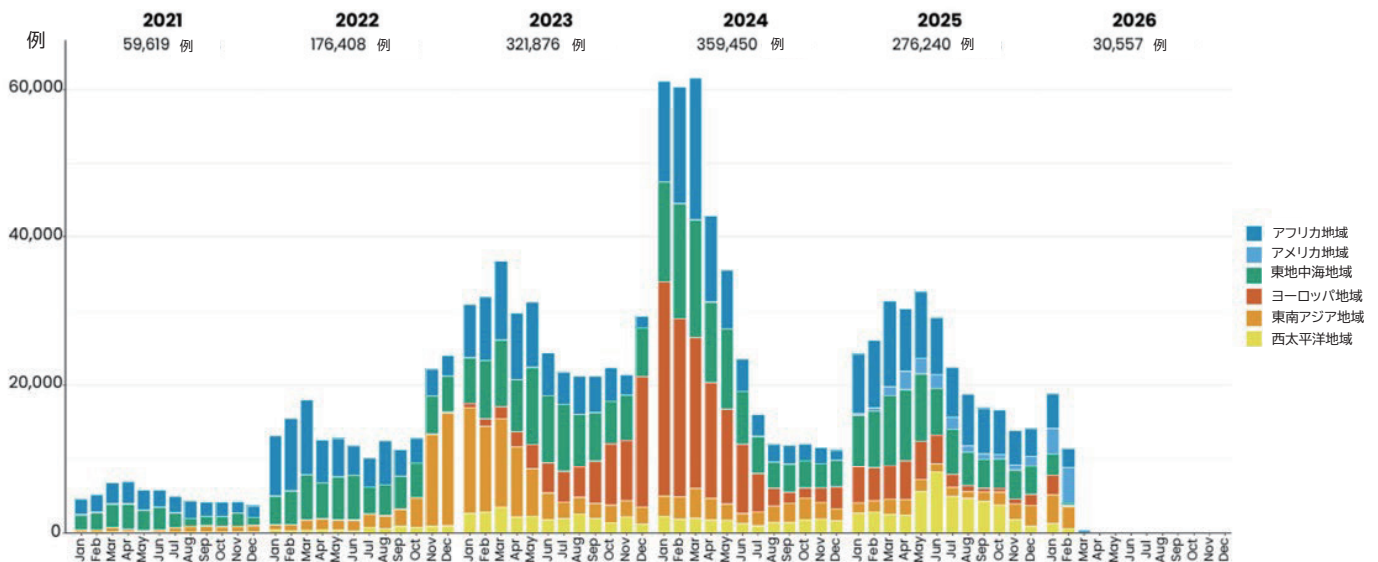
麻疹の輸入感染に対する対策を行うことは大切だね。
次は、全国・愛知県・名古屋市、
世界での麻疹の発生動向についてみていこう。





全国・愛知県・名古屋市の麻疹症例報告数（図1）

全国では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行以降、麻疹症例報告数は年間10例以下に減少していましたが、2023年には28例へ増加し、2024年はさらに46例に増加し、2025年は265例、2026年は第33週の時点で549例と増加しています。愛知県および名古屋市においても、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行以降は、麻疹症例の報告数は減少しました。しかし、全国と同様2023年以降、報告数は徐々に増加してきています（図1）。



世界の麻疹症例報告数（図2）

WHO. Measles and Rubella Global Update March 2026 より引用・加工

世界においても、WHOの集計によると、2019年の541,401例と比較し、2020年は93,840例、2021年は59,619例と新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行以降は報告数は大きく減少しましたが、2022年は176,408例、2023年は321,876例、2024年は359,450例と増加し、2025年には276,240例が報告されました（図2）。

2026年は3月18日時点で30,557例であり、地域別にみると近年の主な報告地域は、アメリカ地域、アフリカ地域、東南アジア地域の3地域で、全体の74%を占めています。一方、国別では、直近6か月間（2025年8月～2026年1月）における世界の麻しん症例報告数の上位10か国はインド、アンゴラ、インドネシア、イエメン、パキスタン、カメルーン、メキシコ、スーダン、カザフスタン、ラオスであり、アジアの国々においても麻しんの流行が報告されていることがわかります。



アジア・アジアパラ競技大会との関係

2026年9月～10月、名古屋市では愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会が開催されています。この大会では、アジア各国から多くの選手や観客が名古屋市に訪れています。感染症対策として、名古屋市でも様々な準備を進めてきました。

こうした国際イベント等では、**多くの人が集まる、海外からの来訪者が増える**という理由から、麻しんのような感染症が広がるリスクが高まります。

さらに、国際イベント以外でも、2014年～2015年には、アメリカのディズニーランドで麻しんの集団感染が発生し、複数の州やカナダ、メキシコにも感染が広がりました。

また、日本でも2018年に沖縄県で、海外からの観光客をきっかけに麻しんが広がり、観光地を中心に集団感染が発生しました。このように、人が多く集まるイベントや海外との往来が増える時期は、感染拡大のリスクが高まるため、特に注意が必要です。

麻しんは、非常に感染力が強い病気ですが、ワクチンで防ぐことができます。麻しん感染者の海外からの流入に起因する集団感染を抑え込むためには、2回の定期接種をした人の接種率を95%以上に維持することが必要です。現在、名古屋市を含む愛知県の麻しんワクチン接種率は、1回目で約93%、2回目で約92%となっており、95%には達していません。

さらなる接種率の向上のほか、大人で過去にワクチンを2回受けたかわからない方はかかりつけ医などにご相談いただき、免疫がない場合は積極的にワクチンを打ちましょう。

ポイント

ワクチンは2回接種が基本
接種していない人は感染しやすい
免疫がないとほぼ発症する

こんな方は特に確認しましょう

ワクチンを2回受けたかわからない
子どもの予防接種が済んでいない
海外に行く予定がある

体調が悪いときは

次のような症状がある場合は注意が必要です。

高い熱が出た

発しん（赤いぶつぶつ）が出た

麻しんの人と接触した可能性がある

その場合は

- ・いきなり受診せず
- ・まず医療機関に電話で相談してください
- ・また公共交通機関の利用を控えましょう

麻しんは空気感染するので感染拡大を防ぐためにとても重要です。

🔍 まとめ

麻しんは非常に感染力が強い病気です。麻しんに対する免疫がない方が感染すると、ほぼ100%発症します。

日本では主に、海外から持ち込まれて発生しています。

名古屋市でも近年、患者が増えています。

愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会により、海外からのヒトの流入で麻しん患者が増える可能性があります。

予防の基本はワクチン接種（2回）です。

最後に



麻しんは「昔の病気」と思われがちですが、今も世界中で発生している感染症です。

2026年は、名古屋市にとって大きな国際イベントの年です。

安心して大会を終えるためにも、一人ひとりが「自分は大丈夫か」を確認することが大切です。

自分自身と、家族、そして地域を守るために、今一度、麻しんの予防接種履歴の確認をお願いします。



名古屋市衛生研究所

〒463-8585 名古屋市守山区桜坂四丁目 207 番地

TEL 052-737-3711 FAX 052-736-1102

E-mail a7373711-01@kenkofukushi.city.nagoya.lg.jp

ホームページ 名古屋市公式ウェブサイト上に公開しています

名古屋市衛生研究所

検索